



(東京) 十一年二月廿六日

天気豫報が三振して廿六日東京帝都をすつかり  
またまた大雪にしてしまつた、午前八時頃か  
らチラチラと降り出した小雪をながめて市民  
は「もう雪は澤山だ」とばかり恨めしげに空  
を仰ぐ。正午にはまだ消え残つた廿三日の雪  
に再化粧して約十糎、鶯毛は雪霏として飛ん  
散亂し人は首をオーバーの襟に埋めて鼻汁を  
すすり乍ら徘徊してゐる、銀座八丁まだ廿三  
日の残雪整理も片附かないのにこの雪、眞新  
しい雪搔きを手にしなから「いやになるなあ」  
と歎息ついてゐる小僧さん、東京驛では入  
營する兵隊さんを見送りに来た人達「これぞ  
滿洲氣分も出ますね」ととんだ非常時氣分を